MOTOROLA

特定小電力トランシーバー

MS80

取扱説明書

47 チャンネル

このたびはモトローラの特定小電力トランシーバーMS80 をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用される前に別紙の“安全上のご注意”と本取扱説明書を必ずお読みください。

このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。

モトローラ特定小電力トランシーバーのお問い合わせ先 ... 03-6365-7000
ホームページ........................ http://www.motorolasolutions.com/JP

仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ・ソリューションズ株式会社 PCR 事業部
〒 106-0032 東京都港区六本木 1-8-7 アーク八木ヒルズ

中国印刷

付属品 － 下記の付属品をご確認ください。 －

●リチウムイオン電池パッケージ
- リチウムイオン電池パック...... 1
- リチウムイオン電池ケース...... 1
- シングル充電器（AC アダプタ付） 1

●アルカリ乾電池対応パッケージ
- アルカリ単３乾電池ケース...... 1

●両パッケージ共通
- ベルトクリップ（取付用ビスも含む）.. 1
- 取扱説明書（本書）................. 1
- 安全上のご注意 / 保証書............. 1

お客様へ

● **防水（防噴流）について**

外部マイク接続時は防噴流にはなりません。外部マイク接続時に雨天等でご利用になる場合は、外部マイクのケーブルを伝わってトランシーバー内部に水が入らないようご注意ください。故障の原因となります。

本機の防水性能を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

キズ、劣化、外れ、汚れなどの確認
- ボタンやスイッチ類のラバー
- MIC ジャック、SP ジャックのキャップ
- 電池ケースの防水パッキン

お手入れのしかた

水・砂・泥などがついたときは、柔らかいきれいな布で拭きとってください。必ず MIC ジャック、SP ジャックのキャップと、電池ケースを確実に閉めた状態で拭きとってください。

オーバーホールのお奨め

お買い上げから 1 年経過した後、またはキズ、劣化等が確認されたときはオーバーホールをお奨めします。また、オーバーホール後も定期的なメンテナンスをお奨めします。なお、オーバーホール代金は有償となりますのであらかじめご承知おきください。

●アフターサービス

◎ 保証期間はお買い上げの日より 1 ヵ年です。
本製品には保証書が添付されています。お買い上げいただいた日から 1 年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。
過失など、故障内容によっては、保証期間中であっても有償修理の対象となる場合があります。

◎ 保証書は大切に保管してください。
保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも保証期間が経過したものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。
また、お買い上げ日・販売店名等の必要事項が記入してない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

故障かな？ と思ったら・・・

間違った操作をしていませんか？
修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ **電源が入らない！**
- 電池は正しく取り付けてありますか？
- 電池は消耗していませんか？
- リチウムイオン電池パック（BN60）は十分に充電してありますか？

◎ **送信できない！**
- PTT（送信ボタン）を正しく押していますか？
- 受信専用モードが ON になっていませんか？
- 相手が話し中ではありませんか？
  信号を受信しているときは、送信できません。
- 外部マイク使用の場合、きちんと最後まで差し込まれていますか？

◎ **通話できない！**
- 相手と同じ通話モード（ノーマルモード・グループモード）に設定していますか？
- 相手と同じチャンネルに設定していますか？
- 相手と同じグループ番号（または DCS コード）に設定していますか？
- プライバシーモードの場合、送信側・受信側ともプライバシーモードの設定がされていますか？
- 相手との距離が離れすぎていませんか？

◎ **こちらの声が、相手側で小さく聞こえる！**
- マイクロホンを塞いでいませんか？
- マイクから口元が離れていませんか？
- 音量は適正ですか？

◎ **勝手に電源が切れる！**
- オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？
- 電池が消耗していませんか？
- リチウムイオン電池パック（BN60）は十分に充電してありますか？

◎ **グループモードで運用中に他の人の通話が聞こえる！**
- モニター機能になっていませんか？
  電源ボタンを長押し（約 1 秒）して電源を切り、再度電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して電源を入れると解除されます。
- 他の人も同じグループ番号を使用している場合があります。
  グループ番号を変えてください。

正常に動かないとき － オールリセット －

スイッチを押しても反応しないときや、『故障かな？と思ったら・・・』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

● リセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② ▲ボタン、▼ボタン、MODE（🔑）ボタンを同時に押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③「ピッ」と鳴り、オールリセットされます。

定　格

送受信周波数：01ch ～ 11ch：422.0500MHz ～422.1750MHz
（12.5kHz ステップ） 12ch ～ 20ch：422.2000MHz ～422.3000MHz
中継装置使用時：
21ch ～ 38ch：送信440.0250MHz ～440.2375MHz
受信421.5750MHz ～421.7875MHz
39ch ～ 47ch：送信440.2625MHz ～440.3625MHz
受信421.8125MHz ～421.9125MHz

電波型式：F3E
通信方式：シンプレックス方式およびセミデュプレックス方式
送信出力：10mW/1mW（中継チャンネル 21 ～ 38ch）以下（電波法施行規則第 6 条適合）
受信感度：－ 7dBμV 以下（@ 12dB SINAD）
低周波出力：400mW 以上（@ 8 Ω、THD10%）電源電圧 3.7V 時
動作温度範囲：－ 10℃～＋ 50℃
定格電圧：DC 3.7V
動作電圧範囲：DC 2.2V ～ 4.5V
本体寸法：リチウムイオン電池ケース使用時
99.5 × 55 × 23.5mm（高さ×幅×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず）
アルカリ単３乾電池ケース使用時
99.5 × 55 × 30mm（高さ×幅×奥行き：アンテナおよび突起部を含まず）
本体重量：リチウムイオン電池ケース使用時　約 138g（リチウムイオン電池パックを含む）
アルカリ単３乾電池ケース使用時　約 120g（単３形アルカリ乾電池を含まず）

この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。

※ RoHS 指令対応

アクセサリ － 詳細はカタログをご覧ください －

◎ リチウムイオン電池パック：BN60
◎ リチウムイオン電池ケース：JCPLN0002
◎ アルカリ単３乾電池ケース：JCPLN0003
◎ シングル充電器（AC アダプタ付）：JCPCN0003
◎ ６連型充電器（AC アダプタ付）：JCPCN0004
◎ スピーカマイク：JSPMN0001
◎ ブームマイクイヤホン：JSPRN0003
◎ 小型タイピンマイク＆イヤホン：JSPRN0001
◎ タイピンマイク＆イヤホン（マイク感度切替え付）：JSPRN0002

セットメニューで設定する便利な使いかた

PTT（送信ボタン）を押さずに送信する － VOX 機能 －

PTT（送信ボタン）を押さなくても、話を始めると自動的に送信状態になり、話をやめると受信状態に戻ります。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② MODE（🔑）ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ “oc-oF”が表示されるまで、MODE（🔑）ボタンを何度か押します。
④ ▲または▼ボタンで、“oc-on”にあわせます。
⑤ PTT（送信ボタン）を押します。
設定操作を行う前の状態に戻ります。

● VOX の感度や遅延時間を、セットメニューで細かく設定することができます。詳しくは裏面の“セットメニューによる機能設定”をご確認ください。
● VOX 機能は PTT ホールド機能および自動マイク感度切替え機能と同時に利用することはできません。

空きチャンネルを自動で探す － オートチャンネルセレクト機能 －

PTT（送信ボタン）を押すと、そのとき空いているチャンネルに設定され（相手のトランシーバーも、自動的に同じチャンネルに設定されます）交信することができます。

● 相手のトランシーバーも、同じグループ番号（または DCS コード）に合わせた後、オートチャンネルセレクト機能を“ON”にしてください。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② MODE（🔑）ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ “Ac-oF”が表示されるまで、MODE（🔑）ボタンを何度か押します。
④ ▲または▼ボタンで、“Ac-on”にあわせます。
⑤ PTT（送信ボタン）を押します。
チャンネル表示が“AU”に変わり、自動的にグループモードになります。

この状態で PTT（送信ボタン）を<u>約 1.5 秒以上押す</u>と、相手と交信することができます。

● PTT（送信ボタン）を約 1.5 秒以上押さないと、相手局と交信することはできません。

自動でマイクの感度を切替える － 自動マイク感度切替え機能 －

周囲の騒音の状況に応じて、自動的に適切なマイク感度に切替わります。
騒音の激しい場所と静かな場所を行き来するような場合に便利な機能です。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② MODE（🔑）ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ “AL-oF”が表示されるまで、MODE（🔑）ボタンを何度か押します。
④ ▲または▼ボタンで、“AL-on”にあわせます。
⑤ PTT（送信ボタン）を押します。
設定操作を行う前の状態に戻ります。

● VOX 機能と同時に利用することはできません。

送信を禁止して受信専用として使用する － 受信専用モード －

ガイドシステム子機などに使用するとき、PTT（送信ボタン）を押しても「プープー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“Err”と表示されて、送信できないようにすることができます。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② MODE（🔑）ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ “ro-oF”が表示されるまで、MODE（🔑）ボタンを何度か押します。
④ ▲または▼ボタンで、“ro-on”にあわせます。
⑤ PTT（送信ボタン）を押します。
設定操作を行う前の状態に戻ります。

● VOX 機能と同時に利用することはできません。

LED インジケータを点灯しないようにする

送信時に“赤色”、信号受信時に“緑色”に点灯する LED インジケータを、点灯しないようにすることができます。
電池の消耗を抑えたい時や、LED の点灯が目障りな場合は“OFF”にしてください。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② MODE（🔑）ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ “LE-on”が表示されるまで、MODE（🔑）ボタンを何度か押します。
④ ▲または▼ボタンで、“LE-oF”にあわせます。
⑤ PTT（送信ボタン）を押します。
設定操作を行う前の状態に戻ります。

チャンネルの表示方法を切替える

チャンネルの表示方法を、下記の 2 通りから選択することができます。
チャンネル表示方法が異なるトランシーバーと交信する場合、相手のチャンネル表示方法に合わせることができます。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② MODE（🔑）ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ “Ch-47”が表示されるまで、MODE（🔑）ボタンを何度か押します。
④ ▲または▼ボタンで、希望の表示方法にあわせます。
47 に設定：01 ➠ 02 ➠ 03 ➠ 04 ➠ 05 ➠・・・➠ 15 ➠ 16 ➠ 17 ➠ 18 ➠ 19 ➠ 20
St に設定：1 ➠ 2 ➠ 3 ➠・・・➠ 7 ➠ 8 ➠ 9 ➠ 01 ➠ 02 ➠ 03 ➠・・・➠ 09 ➠ 10 ➠ 11
⑤ PTT（送信ボタン）を押します。
設定操作を行う前の状態に戻ります。

セットメニューによる機能設定一覧

本機には 21 種類のセットメニューがあります。
各メニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② MODE（🔑）ボタンを押しながら電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して電源を入れます。
セットメニューが表示されます。
③ MODE（🔑）ボタンを押すたびに、セットメニューが切り替わります。
設定したいメニューを選択します。
④ ▲または▼ボタンを押して、点滅している設定項目を選択します。
⑤ PTT（送信ボタン）を押します。
セットメニューの設定が終了します。

PTT（送信ボタン）以外に、電源ボタンを長押し（約 1 秒）して電源を切っても、セットメニューの設定を終了することができます。

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
GP-01	グループコード（01 ～ 38）の選択 グループコードの番号を選択します。	01 ～ 38	01
Ph-oF	PTT ホールド機能の ON/OFF ON にすると、PTT（送信ボタン）を一度押すことにより、再度 PTT（送信ボタン）を押すまで、送信状態が続きます。 ※ VOX 機能と同時に利用することはできません。	OFF/ON	OFF
Ac-oF	オートチャンネルセレクト機能の ON/OFF ON にすると、PTT（送信ボタン）を押した時に、誰も使用していないチャンネルを自動で選び、相手局と交信することができます（相手のトランシーバーも、オートチャンネルセレクト機能を ON にしてください）。	OFF/ON	OFF
AL-oF	自動マイク感度切替え機能の ON/OFF ON にすると、声の大小に応じて、自動的に適切なマイク感度に切り替わります。 ※ VOX 機能と同時に利用することはできません。	OFF/ON	OFF
EG-2	外部マイク感度切替え機能 アクセサリの外部マイクを使用する際、マイク感度を三段階で設定することができます。感度を低くするときは“1”、感度を高くするときは“3”に設定します。	1 / 2 / 3	2
oc-oF	VOX 機能の ON/OFF ON にすると、PTT（送信ボタン）を押さなくても、話を始めると自動的に送信状態になり、話をやめると受信状態に戻ります。 ※ PTT ホールド機能および自動マイク感度切替え機能と同時に利用することはできません。	OFF/ON	OFF
oL-08	VOX 感度設定 VOX 機能動作時、送信状態になる時の感度を設定します。周囲の騒音が大きく、話をしていないのに送信状態になる時などは、感度を下げて（数値を小さく）ください。	1 ～ 15	8
or-05	VOX 遅延時間設定 VOX 機能動作時、話をやめてから受信状態に戻るまでの時間を、0 秒（設定値“0”）～ 5 秒（設定値“50”）の間で設定（約 0.1 秒間隔）できます。	0 ～ 50	5 （約 0.5 秒）
ro-oF	受信専用モードの ON/OFF（ガイドシステム子機などに使用のとき。VOX 機能と同時に使用することはできません） ON にすると、PTT（送信ボタン）を押しても「プープー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“Err”と表示されて送信できません。	OFF/ON	OFF

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
bP-on	ビープ音の ON/OFF ボタンやスイッチを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。 この音が耳障りなときは OFF に設定してください。	ON/OFF	ON
tb-oF	送信ビープ音の ON/OFF ON にすると、送信を始めた際に電子音が鳴ります。 外部マイクで VOX 機能を使用するときなど、送信状態になったことを音で確認することができます。	OFF/ON	OFF
ch-47	チャンネル表示の切替え チャンネルの表示を、01 ～ 47 の表示（47 に設定した場合）、または、1 ～ 9、01 ～ 11 の表示（St に設定した場合）に、切替えることができます。	47/St	47
LE-on	LED インジケーターの ON/OFF OFF にすると、送受信時に LED インジケーターが点灯しないようになります。	ON/OFF	ON
LP-2	照明ランプ設定 通常は“2”に設定されており、ボタンを押すと照明ランプが約 2 秒間点灯します。OFF にすると、照明ランプを常時消灯することができます。	2 / OFF	2
cP-oF	コンパンダー機能 ON にすると、相手が話しているときに聞こえる「サー」というバックノイズを軽減し、相手の音声を聞き取りやすくします（相手のトランシーバーも、コンパンダー機能を ON にしてください）。	OFF/ON	OFF
hE-oF	音質切替え機能 ON にすると、高域が強調された音質になります。	OFF/ON	OFF
AP-oF	オートパワーセーブの ON/OFF ON にすると、2 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にします。 1分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。	OFF/ON	OFF
ct-1	コール音回数（1 ～ 5）の選択 コール音で呼び出しできる“コールトーン機能”が動作時の、コール音が鳴る回数を選択できます。 1 ～ 5 のいずれかの数字を電子音の回数で送信します。送信中に MODE（🔑）ボタンを押している間、コール音を選択した回数送ることができます。通常は“1”に設定されています。 数字　電子音 1　ピロロッ 2　ピロロッ ピロロッ 3　ピロロッ ピロロッ ピロロッ 4　ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ 5　ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ ピロロッ	1 ～ 5	1
Pd-on	PTT ディレイ機能の ON/OFF（グループモード） 相手の話が終わり、待ち受け状態になるときに聞こえる「ザーッ」という耳障りなノイズ音をカットして受信します（相手のトランシーバーも、PTT ディレイ機能を ON にしてください）。	ON/OFF	ON
Ec-1	エマージェンシー機能の設定（アラームまたはメモリーチャンネルの選択） “1”： 緊急アラーム音で緊急を知らせる“アラーム”の動作になります。 “2”： あらかじめ決めておいた緊急連絡用のチャンネル（メモリーチャンネル）に自動的に切り替わります。	1 / 2	1
dP-10	中継機能使用時の送信出力の切り換え 中継機能時に使用する、21 ～ 38 チャンネルにあわせたときの送信出力（アンテナから出力される電波の強さ）を切り替えることができます。 “1”： 送信出力が 1mW に設定され、中継機能使用時に 3 分以上の連続送信が可能になります。 “10”： 送信出力が 10mW に設定され、連続して送信できる時間は 3 分以内になります。	1 / 10	10

基本的な使いかた

各部のなまえ

アンテナ（回転式）
通信を行う際は、アンテナを立ててください。

ハンドストラップ取り付け穴

音量調節ツマミ

SP/MIC ジャック
アクセサリのスピーカマイクなどを接続する端子です。
● アクセサリを使用しないときは、カバーをしっかりと取り付けてください（取り付けない状態で使用すると防噴流にはなりません）。

送信保持中表示
チャンネル番号表示
ロック表示
プライバシー機能
音量レベル表示（送信時にはマイク入力レベルを表示）
電池残量表示
グループ番号表示
中継チャンネル表示

LED インジケータ
送信中：赤色で点灯
受信中：緑色で点灯

エマージェンシー（EMG）ボタン
長押し（約 1 秒）するとエマージェンシーアラーム（またはメモリーチャンネル）になります。

PTT（送信ボタン）

ディスプレイ

▲ / ▼ボタン

電源ボタン
長押し（約 0.5 秒）すると電源 ON、再度長押し（約 1 秒）すると電源 OFF になります。

MODE（O╥）ボタン
通話モードを切り替えることができます。
また、長押し（約 1 秒）すると、「ピピッ」と鳴ってキーロック、再度長押し（約 1 秒）すると「ププッ」と鳴って、キーロックを解除します。

スピーカ

電池ケースロックレバー（底面）

マイクロホン
防噴流構造のマイクロホンを使用しているため、なるべく口元に近づけて話してください。

リチウムイオン電池パックの取り付けかた
～リチウムイオン電池パッケージのとき～

① リチウムイオン電池パックを、リチウムイオン電池ケースにセットします。

② リチウムイオン電池ケースを、トランシーバーに取り付けます。
③ 底面のロックを、確実に閉めます。

「カチッ」と音がするまで閉める

● リチウムイオン電池パック（BN60）を使用するときは、必ず充電してください。
● 長時間使用しない場合は、リチウムイオン電池パック（BN60）を取り外しておいてください。
● リチウムイオン電池パックは常温にて約 500 回繰り返して使用できます。正しい充電を行っても使用できる時間が短くなってきた場合は電池パックの寿命です。新しい電池パックをお買い求めください。
● 不要になった電池パックは、端子にテープなどを貼り付けて絶縁し、リサイクル協力店へお持ちください。また、電池パックを分解しないでください。

Li-ion

充電のしかた
～リチウムイオン電池パッケージのとき～

① 充電器の底面に、AC アダプタのプラグを差し込みます。
② AC アダプタをコンセントに差し込み、電源を切ったトランシーバーを充電器に挿し込みます。
③ LED インジケータが赤く点灯し、充電が開始されます。
④ 充電が完了すると、LED インジケータが緑色の点灯に変わりますので、トランシーバーを充電器から取り外してください。また、AC アダプタもコンセントから外してください。
  ● 充電時間は、空の状態の電池パックで最大約 5 時間です。充電時間は電池パックの残量によって変化します。
  ● 充電するときは、必ずトランシーバーの電源を切ってください。
  ● 電源を入れたまま充電すると十分に充電ができずに、LED インジケータが赤色で点滅することがあります。そのような場合は一度電源を切って再度充電を行ってください。その後 LED インジケータが緑色の点灯になれば充電が完了となります。
  ● 正常な充電方法にも関わらず、LED インジケータが赤色で点滅する場合は、充電を中止してお買い求めの販売店、もしくは弊社 PCR 事業部までご相談ください。

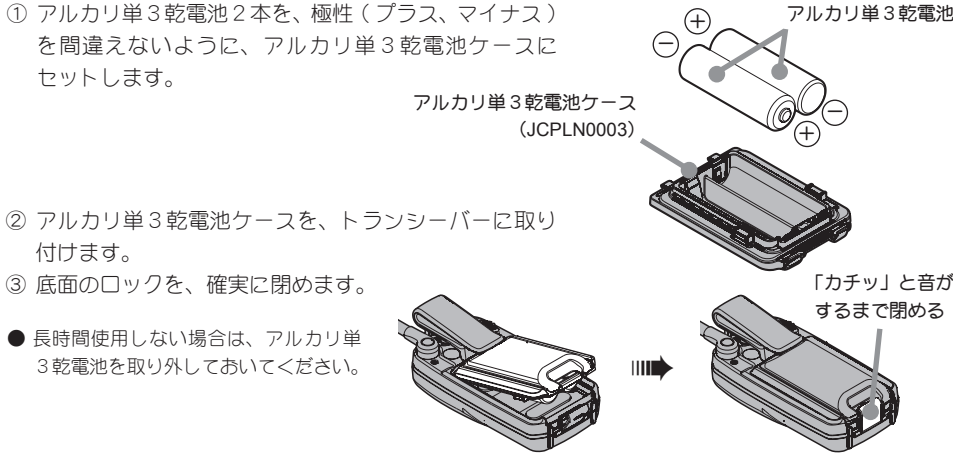
AC アダプタのプラグ
充電器
LED インジケータ
赤の点灯：充電中
緑の点灯：充電終了

アルカリ単３乾電池ケースの取り付けかた
～アルカリ乾電池対応パッケージのとき～

① アルカリ単３乾電池２本を、極性（プラス、マイナス）を間違えないように、アルカリ単３乾電池ケースにセットします。

② アルカリ単３乾電池ケースを、トランシーバーに取り付けます。
③ 底面のロックを、確実に閉めます。

● 長時間使用しない場合は、アルカリ単３乾電池を取り外しておいてください。

「カチッ」と音がするまで閉める

基本的な通話のしかた

本機には、状況に応じて選べる３つの通話方法（ノーマルモード、グループモード、プライバシーモード）があります。通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは、基本となるノーマルモードの通話方法を説明し、グループモードについては、右記の“グループモードの設定”を行い、プライバシーモードについては、右記の“プライバシーモードの設定”を行ってから、下記の方法で通話してください。

◎ 選べるチャンネルは、合計 47 チャンネル（01 ～ 47）です。

① 電源を入れる
電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）すると、電源が入ります。
「ピッ」と電子音が鳴ります。

② チャンネルをあわせる
▲または▼ボタンを押して、相手と同じチャンネルにします。

③ 押しながら話す
PTT（送信ボタン）を押しながらマイクロホンに向かって話します。
・ ディスプレイに“ıı ıı”が表示されます。
・ LED インジケータが“赤色”に点灯します。
・ PTT（送信ボタン）を離すと、相手の話を聞くことができます。
・ 防噴流構造のマイクロホンを使用しているため、なるべく口元を近づけて話してください。

◎ 相手の声を聞きながら、音量調節ツマミで音量を調節してください。
◎ 連続して送信できる時間は３分以内です。
３分間連続して送信し続けると、送信は自動的に停止します。
なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウン表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
また、送信が停止した場合、その後の２秒間は PTT（送信ボタン）を押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。
● 相手の信号を受信しているときは、送信できません。
LED インジケーターが緑色に点灯しているときは、PTT（送信ボタン）を押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴るだけで、送信できません。

ボタンをロックする

誤ってボタンに触れても、チャンネルなどが変わらないようにすることができます。

● ボタンをロックすると、セットメニューによる設定の変更やオールリセットもできなくなります。これらの操作は、ロックを解除してから行ってください。

ボタンをロックするには
MODE（O╥）ボタンを長押し（約 1 秒）すると、「ピピッ」と鳴ってボタンがロックされます。
“O╥”が点灯します。
再度 MODE（O╥）ボタンを長押し（約 1 秒）すると、「ププッ」と鳴ってボタンのロックが解除されます。
“O╥”が消えます。

一時的にモニターをする

受信信号の状態を、一時的にモニターする機能です。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② ▼ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。

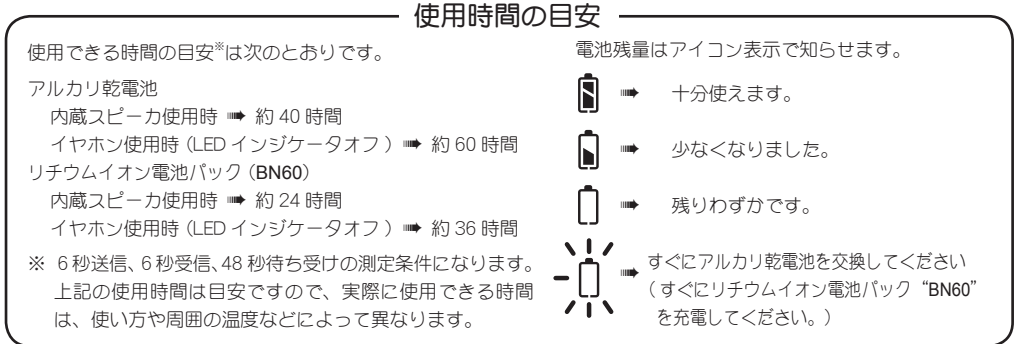
モニターを解除するには、
① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② 再度電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。

使用時間の目安

使用できる時間の目安※は次のとおりです。

アルカリ乾電池
　内蔵スピーカ使用時 ➡ 約 40 時間
　イヤホン使用時（LED インジケータオフ）➡ 約 60 時間
リチウムイオン電池パック（BN60）
　内蔵スピーカ使用時 ➡ 約 24 時間
　イヤホン使用時（LED インジケータオフ）➡ 約 36 時間

※ 6 秒送信、6 秒受信、48 秒待ち受けの測定条件になります。上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。

電池残量はアイコン表示で知らせます。
➡ 十分使えます。
➡ 少なくなりました。
➡ 残りわずかです。
➡ すぐにアルカリ乾電池を交換してください（すぐにリチウムイオン電池パック“BN60”を充電してください。）

ベルトクリップの取り外しかた / 向きの変えかた

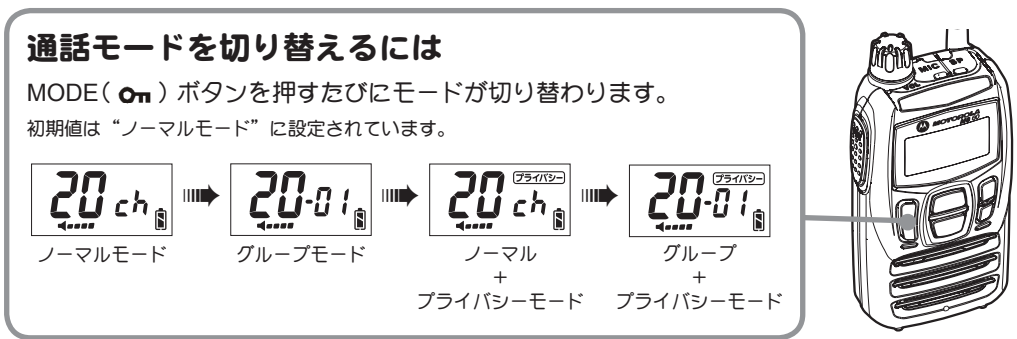
ベルトクリップは、取り外したり、向きを変えて取り付けることができます。
ベルトクリップを外すときは、ネジをコインやドライバーを使用して外してください。
ベルトクリップを取り付ける際は、使用中に外れることがないように、ネジでしっかりと取り付けてください。

便利な使いかた

通話モードの切り替えかた

通話を行うモード（通話モード）として、次の３通りの方法があります。
状況に応じて使い分けてください。

ノーマルモード ➡ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき。
グループモード ➡ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき。
チャンネル番号とグループ番号が一致すると通話ができます。
プライバシーモード ➡ 他の人に通話を聞かれたくないとき。

通話モードを切り替えるには
MODE（O╥）ボタンを押すたびにモードが切り替わります。
初期値は“ノーマルモード”に設定されています。

グループモードの設定

「同じチャンネルで他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループ番号に設定しておくと仲間同士の音声だけが聞こえます。

グループモードにすると、受信終了時の「ザーッ」音をカットして聞きやすくなります。アクセサリのタイピンマイク＆イヤホンや、ブームマイク＆イヤホンを使用される場合は、グループモードで使用されることをおすすめします（詳細は“セットメニューによる機能設定”の“PTT ディレイ機能”を参照ください）。

① MODE（O╥）ボタンを押す
グループモードにします。

② 電源を切る
電源ボタンを長押し（約 1 秒）すると、電源が切れます。

③ MODE（O╥）ボタンを押しながら電源を入れる
セットメニューの“GP-01”が表示されます。

④グループ番号を選ぶ
▲または▼ボタンを押して“01 ～ 38”の中から任意のグループ番号を選択します。

⑤ PTT（送信ボタン）を押す
セットメニューの設定が終了します。
左記の“基本的な通話のしかた”と同様に通話します。
他人の通話が聞こえる場合は、グループ番号を変更してください。

DCS コードに切り替える

グループモードで、グループコード（38 種類）が不足した時など、グループコードに替えて、104 種類の DCS コード（d023 ～ d754）を使用することができます。

● 中継機能を使用するときは、DCS コードを使用することはできません。

① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② EMG ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ DCS コード設定状態になり（“oFF”が点滅しています）、▲または▼ボタンを押して、“d023 ～ d754”の中から、希望の DCS コードを選択します。
④ PTT（送信ボタン）を押します。
DCS コードが設定され、グループコードの代わりに“dc”が表示されます。
PTT（送信ボタン）以外に、電源ボタンを長押し（約 1 秒）して電源を切っても、DCS コードの設定を完了させることができます。
⑤ 上記の“通話モードの切り替えかた”のグループモードと同様に通話することができます。
EMG ボタンを短く押すと、信号を受信した相手をコール音（ピピピッ・・・）で、呼び出すことができます。

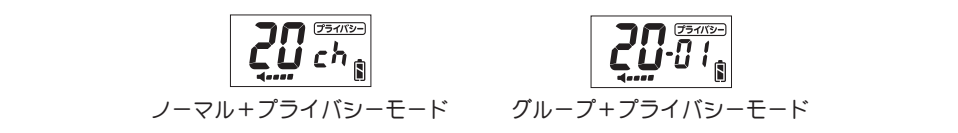
■設定の解除・変更のしかた
① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② EMG ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ 現在設定されている DCS コード“dXxx”が点滅するので、▲または▼ボタンを押して、“oFF”（解除）または別の DCS コードを選択します。
④ PTT（送信ボタン）を押します。
DCS コード設定が終了し、ノーマルモードに戻ります。

■ DCS コードの確認
① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② EMG ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
③ 現在設定されている DCS コード“dXxx”が点滅します。
④ 確認が終わったら、PTT（送信ボタン）を押します。

プライバシーモードの設定

プライバシーモードに設定していない人は、通話内容を聞き取れなくなります。
プライバシーモードは、ノーマルモード、グループモードのどちらでも使用することができます。

● 同じチャンネルでプライバシー機能を動作させたトランシーバーでは、通話内容を聞くことができる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
● プライバシー機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。

① “プライバシー”が点灯するまで MODE（O╥）ボタンを何度か押します。
② “基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

通話距離をのばすには － 中継機能 －

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、中継器“FTR-308”を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。
なお“FTR-308”の詳細については、お買い上げいただきました販売店または弊社 PCR 事業部にお問い合わせください。

● メモリーチャンネルを設定（下記の“メモリーチャンネルの設定方法”参照）した後で、下記の中継機能用チャンネルの追加または、削除を行った場合は、“Ec”の設定が“2”から“1”になり、メモリーチャンネルが消去されますので、再度メモリーチャンネルを設定しなおしてください。

■設定のしかた
下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル（合計 27 チャンネル）が追加されます。
① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
③ ▲または▼ボタンを押すたびに、チャンネル番号が変わります

■設定を解除するには
① 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。

■通話のしかた
① ▲または▼ボタンを押して、中継用チャンネルの中で“FTR-308”と同じチャンネル番号にあわせます。
②“基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

◎ グループモードを使用することができます（中継器と同じグループ番号にあわせてください）。
● 指定の中継器のみ使用可能です。

緊急を知らせたい － エマージェンシー機能 －

緊急アラーム音で、緊急を知らせたり、あらかじめ決めておいた緊急連絡用のチャンネル（メモリーチャンネル）に自動的に切り替えることができます。
エマージェンシー機能を使用するためには、あらかじめセットメニューの“Ec”（エマージェンシー機能の設定）を、アラーム（“1”）またはメモリーチャンネル（“2”）から選択する必要があります（初期値は“1”）。
設定方法は“セットメニューによる機能設定一覧”ご覧ください。

■アラーム（セットメニューの“Ec”を“1”に設定した場合）
EMG（エマージェンシー）ボタンを 1 秒以上押すと、エマージェンシー機能が動作し、自動的にスピーカー音量が最大になり、“ピーッピーッピーッ・・・”とアラーム音が鳴り続け、周囲の人に緊急を知らせることができます。
◎ チャンネルとグループコード（DCS コードが設定されているときは“dc”）が点滅します。
◎ 一度 PTT（送信ボタン）を押すと、4 秒間隔で“ピーッ”を送信し、相手のスピーカーからも“ピーッ”音を鳴らして呼び続けることができます。
◎ PTT（送信ボタン）を押している間、アラーム音を中断して通話することができます。また、受信側もアラーム音を中断して、受信することができます。
● アラームに設定する場合は、イヤピースマイクロホン、ヘッドセット、イヤホンなどは、トランシーバーに接続しないでください。
● エマージェンシー機能が動作中は、▲ / ▼ボタンおよび MODE ボタンは動作しませんので、チャンネルやモードの切り替えを行うことはできません。
● 秘話モードを設定しているときにアラーム音を受信すると、アラーム（ピー音）の音程は少し低くなります。

■メモリーチャンネル（セットメニューの“Ec”を“2”に設定した場合）
EMG（エマージェンシー）ボタンを 1 秒以上押すと、エマージェンシー機能が動作し、あらかじめ設定したメモリーチャンネル（下記の“メモリーチャンネルの設定方法”参照）に切り替わります。
◎ チャンネルとグループコード（DCS コードが設定されているときは“dc”）が点滅します。
◎ メモリーチャンネルで通話（緊急連絡）ができます。
● エマージェンシー機能が動作中は、▲ / ▼ボタンおよび MODE ボタンは動作しませんので、チャンネルやモードの切り替えを行うことはできません。

■エマージェンシー（アラーム / メモリーチャンネル）機能を終了するには
EMG（エマージェンシー）ボタンを 1 秒以上押すか、電源を切ると、エマージェンシー機能が OFF になります。

メモリーチャンネルの設定方法

① ▲または▼ボタンを押して、メモリーチャンネルにしたいチャンネル番号にあわせ、MODE ボタンで希望のモードに切り替えます。
② 電源ボタンを長押し（約 1 秒）して、電源を切ります。
③ MODE ボタンを押しながら電源ボタンを長押し（約 0.5 秒）して、電源を入れます。
セットメニューの“GP-xx”が表示されます。
④ MODE ボタンを押すたびに、セットメニューが切り替わりますので、“Ec- 1”を選択します。
⑤ ▲または▼ボタンを押して、点滅している数字を“2”にあわせます。
⑥ PTT（送信ボタン）を押します。
メモリーチャンネルが設定され、設定を行う前の状態に戻ります。

◎ メモリーチャンネルを変更する場合は、再度上記の操作をおこない、操作⑤で数字を“1”にあわせて、“アラーム”にしてください。その後、再度上記①から⑥の操作をおこなってください。